教員名	平野　由紀子　(HIRANO　Yukiko)
所　属	人間文化研究科国際日本学専攻
学　位	文学修士（1970　お茶の水女子大学）
職　名	教授
URL／E-mail	rano@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

日本古典　／　平安文学　／　和歌

◆主要業績　　総数（2）件

・私家集研究のフロンティア―道長と栄花物語　国文学（学燈社）50 巻 4 号　pp111-116（2005 年 4 月）
・日本文学と女性―小町をめぐって　日語日文学研究（韓国日語日文学会）第 54 輯　pp25-33（2005 年 8 月）

◆研究内容

国宝「西本願寺本三十六人集」は三十六歌仙と称された小町や貫之など、すぐれた歌人たちの私家集（家集とも。個人を中心とした歌集）である。その料紙の見事さ、書の美しさは平安文化の頂点を示す。三十六人集の全注釈は未だない。

私家集研究が私の領域である。平安時代、十二世紀以前は、種々様々な私家集が編まれ、その文学史的意義の究明を目的とし三十年以上研究している。

二〇〇五年度は、院生との十年来の輪読の成果「千里集」の全注釈を来年刊行すべく、原稿を整えた。科学研究費基盤研究（ｃ）の報告書として「五本対照　千里集」を作成した。

また、藤原道長の家集は「御堂関白集」というが、巻末に欠脱があった。冷泉家の本が複製刊行され、はじめて十七首が出現した。その精読によれば、道長、妻倫子、その母穆子との関係について、栄花物語の記述とは全く異なる事実が判明する。

◆教育内容

１）研究科（大学院）の科長を二期つとめ、その第四年目にあたる。この間、大学院の演習一つ、学部の演習二つを担当し、講義は非常勤講師に依頼した。
２）大学院の演習は一四名の受講者がおり、そのうち二名は日本女子大からの聴講生であった。新出の冷泉家蔵「御堂関白集」巻末十七首を各自分担し、精読し、注釈を付し、史実と比較した。新見が多く得られたがそのうちの一つについて発表したのが、「私家集研究のフロンティア」である。
３）院生のうち二〇〇五年度学会誌に論文投稿したもの二人、また学会発表をしたもの二人、その指導をした。
４）学部の演習（イ）二年生後期の基礎演習、（ロ）三年生の演習（中古）は、基本的に注釈のない原典を自力で読み解くための方法を獲得させる目的を持つ。（イ）は少人数クラスとするため同時開講される四つのうちの一つ。（ロ）は（イ）を修めた学生を対象に、平安文学研究に絞る。

◆Reseach Pursuits

My area of study is private anthologies of Heian waka poems ("shikashu"). A large variety of "shikashu" were compiled in the period before the twelfth century. I have been working on them for more than thirty years, with the aim of understanding their meanings for the literary history of Japan.

I have just finished editing manuscripts, the outcome of group studies for ten years, to publish a book titled A Complete Annotation of the Chisato Collection next year. Also, by carefully perusing the last seventeen waka poems, recently discovered, of the Mido Kanpaku-shu, a collection of Fujiwara Michinaga-related materials, I have identified several facts that differ from the description in the Eiga Monogatari, on one of which I have already published an article.

◆Educational Pursuits

1.Since 2005 was the final year for me as the dean of the graduate school, I taught one graduate seminar and two undergraduate seminars.

2.The graduate seminar was attended by fourteen students, two of whom were from other universities that have agreements for credit exchange with Ochanomizu University. We perused the last seventeen waka poems, recently discovered, of the Reizei-ke version of Mido Kanpaku-shu. Having identified several new facts, I have published an article on one of them.

3.I gave guidance to two of those graduate students whose articles were accepted by academic journals in 2005 and have been printed and two other who read their papers at academic meetings in the same year.

4.My undergraduate seminars has the aim to enable the students to achieve the skills to read Japanese classics basically with no annotation given.

◆共同研究例

・異文化の視点にたつ『句題和歌』研究

◆将来の研究計画・研究の展望

私家集研究は、まだ始まったばかりである。伝本の所在の確定は昭和 40 年代以降可能になった。

私家集の中に他の資料にはない第一級の情報が存在することも少なくない。そのような資料としての私家集研究の他に、もう一つ、なぜそのような多様な私家集が九世紀末から十二世紀にかけて多く出現したか、その文学史的意義を究明することが、私の目標である。仮名書きの消息の出現とも深く関係する。また勅撰和歌集からは見えない贈答歌の表現性の研究とその成果は、従来の物語や日記研究に影響を与えずにはいない。